H20実績集 （森プロ1期メンバー／平成19年度認定5団体）

実績一覧　～平成21年3月末現在～

◆椿森林づくりプラン

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		340	90	11	12%		516
作業道(m)		6,320	6,000	6,174	103%	作業路含む	24,000
間伐等	面積(ha)	44	75	34	45%	利用＋切捨	475
	材積(m3)	3,000	3,000	3,697	123%	支障木含む	21,000

◆たにぐみ山づくりプロジェクト（岩坂峠）

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		131	338	118	35%		595
作業道(m)		610	1,710	1,350	79%	作業路含む	7,810
間伐等	面積(ha)	27	40	62	155%	利用＋切捨	196
	材積(m3)	292	1,350	1,141	85%		7,871

◆よみがえれ林業・よみがえれ中濃の森プロジェクト

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		22.0	20.0	32.0	160.0		46
作業道(m)		1,399.0	2,000.0	3,013.0	150.7	作業路含む	7,000
間伐等	面積(ha)	27	60.0	31.9	53.2	利用＋切捨	250
	材積(m3)	985	3,200	1,143	35.7		9,200

◆「長良川源流の森」健全化プロジェクト

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		30	44.94	60	134%		222.71
作業道(m)		1,760	190	190	100%	作業路含む	12,667
間伐等	面積(ha)	1.61	41.89	52.61	125%	利用＋切捨	222.71
	材積(m3)	250	4,486	3,065	68%		22,518

◆恵南地域森林づくりプロジェクト

		H19年度	H20年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		233.14	109	199.04	183%		686.3
作業道(m)		761	2,000	442	22%	作業路含む	9,200
間伐等	面積(ha)	94.06	53	98	184%	利用＋切捨	269
	材積(m3)	1,000	1,380	1,000	72%		7,140

名称	椿森林づくりプラン
事業形態	JV
実施体制	岐阜中央森林組合＋㈱極東森林開発
事業地	岐阜県山県市椿・笹賀地内
①２年目の感想	地域のCATVの特集番組をはじめ、雑誌、新聞等により地域へ森プロの取り組みが理解されてきていることを実感。昨年度敷設した作業道も、一部で凍み崩れは発生しているが概ね問題なく機能している。メンテナンスのノウハウも蓄積できてきている。昨年度に引き続き県内外から多くの視察も受入れて、取り組みをアピールできている。
②２年目ということで見えてきたこと、新たに取り組んだこと、方針転換したこと等	革新的事業にて流通面の改善にも取り組む。具体的には、中間土場を活用したトレーラー搬出や中間土場での地元製材会社への入札の実施などに取り組んだ。
③JV方式について	組合の強み（施業集約化）、事業体の強み（路網敷設）をそれぞれをうまく活用できている。次年度からの新規団地（奥山の施業ノウハウ習得を目指す）でも地元林業事業体と今回同様の役割分担で進める計画。
④集約化状況について	１）所有者に対するアプローチ方法 座談会を行ったが、集客効率が悪いため、森林組合職員が所有者に個別にあたっている。 ２）どのような資料を利用しているか？ 県の基本施業モデルの研修資料を活用。 ３）所有者からの声 完成した作業道には満足していただいている。作業道を見た未実施の所有者からも敷設の期待が高まっている。 ４）道づくりや作業システムについての所有者へのアナウンス 地元所有者へは、作業実施箇所への「森プロ視察ツアー」を実施している。計画と敷設結果が異なる場合は、個別に敷設対象所有者のところへ説明に行きトラブルを未然に解消している。 ５）森づくりのビジョンを所有者へどのように伝えているか 「森プロ視察ツアー」を通じ、長伐期・非皆伐のモデルを示している。また、山県市森林づくり会議を通じて、山形市内に６つある財産区の代表者へ向けて施業の提案を行っている。
⑤作業システムについて（継続・変更点・改良点）	前年度のシステムを継続。新規団地については、急傾斜地向けのノウハウを蓄積する予定（場合によっては幅員3.0mで実施の可能性あり）。
⑥成果について	道づくりに関してはほぼノウハウが確立できた。メンテナンスのノウハウも確実に習得しつつある。
⑦森プロ、新生産、施業プランナー研修で獲得したこと	今年度は参加ができていない。
⑧今後の課題、他団体への助言等	施業プランの作成、流通の改善、急傾斜地での作業道づくりのノウハウの確立が課題である。

名称	たにぐみ山づくりプロジェクト（岩坂峠）
事業形態	単独
実施体制	揖斐郡森林組合
事業地	岐阜県　揖斐川町　谷汲　岩坂峠周辺
①２年目の感想	路網整備は順調に進み、去年より施業プランも明確なものになってきた。森プロを機に若手主体の作業チームを編成した。しかし、集約化については飛躍的に進んだとはいえず、点が面にならないなどといった問題が残っている。
②２年目ということで見えてきたこと、新たに取り組んだこと、方針転換したこと等	作業道と高性能林業機械を用いた作業システムの構築に本格的に乗り出し、施業を行うための基盤整理を進めた。
③JV方式について	導入することで事務仕事、現場、集約化などの分担ができるようになることには魅力があるが、近くにJVを組めるような事業体が少ないのが現状であり、組みたくても組めない森林組合が存在することも事実だと思う。
④集約化状況について	１）所有者に対するアプローチ方法 森林施業プランや集約化のための作業を簡便化、標準化し、所有者が分かりやすい提案書を作成する。そして所有者自ら相談してもらえるようＰＲする。 ２）どのような資料を利用しているか？ 森林簿を利用し、所有者に山の境や施業場所などを知ってもらう。また、森林組合側から定期的にパンフレットを発行している。 ３）所有者からの声 施業を任せるからにはそれなりの結果を出してほしいという声が多い。計画通りに施業が進まなかったり、森林を傷めてしまったりしてクレームをつけられたこともある。 ４）道づくりや作業システムについての所有者へのアナウンス 説明会を開き、パンフレット等の資料を使って説明している。また、現地見学会なども行っている。 ５）森づくりのビジョンを所有者へどのように伝えているか 座談会での説明、森林組合で発行しているパンフレットに記載するなどしている。
⑤作業システムについて（継続・変更点・改良点）	架線系のシステムから車両系のシステムに変更したことで、作業効率が上がった。しかし、来年から県単独搬出補助金がなくなると、赤字になる事業地もあり、さらなる施業効率化が必要である。
⑥成果について	作業道づくりに関するノウハウを蓄積できたとともに、基盤整備も進んだ。
⑦森プロ、新生産、施業プランナー研修で獲得したこと	なるべく多くの研修、視察に参加するようにしている。また、森林組合も研修を主催するようにしている。最近では、森プロ現地研修会「これからの森づくり」を開催した。
⑧今後の課題、他団体への助言等	施業の集約化や作業システムの完全な確立が課題である。組合員との信頼関係も大事にしていきたい。

名称	よみがえれ林業・よみがえれ中濃の森プロジェクト
事業形態	JV
実施体制	中濃森林組合＋㈱カネキ野村木材店
事業地	岐阜県　関市　下之保、富之保　地内
①２年目の感想	今後の施業を効率的に実施するためには、特定の作業システムに拘り全ての林地において同じ方式で対応するのではなく、適材適所の技術対応が必要であると感じた。
②２年目ということで見えてきたこと、新たに取り組んだこと、方針転換したこと等	組合職員による山土場仕分け、工場直送システムに取り組んだ。
③JV方式について	組合と事業体それぞれの強みを活かすことができている。
④集約化状況について	１）所有者に対するアプローチ方法 森林組合職員が各地元を担当し座談会を開催している。 ２）どのような資料を利用しているか？ 森林組合で作成したプラン提案資料を利用している（内容が細か過ぎるとわかりづらい資料になりがちなので、その点に注意している）。 ３）所有者からの声 良い山になったとの声をいただいている。 ４）道づくりや作業システムについての所有者へのアナウンス 今回の施業地をモデル林として今後活用する予定。 ５）森づくりのビジョンを所有者へどのように伝えているか 今回の施業地をモデル林として今後活用する予定。
⑤作業システムについて（継続・変更点・改良点）	新たに導入したロングリーチグラップルを使用した現場においては、ワイヤー集材の作業が無くなる分だけ作業人数が減るため一定の効果は上がった。その利点をより活かすには、列状間伐等の見通しが効く現場での活用が良いと感じている。
⑥成果について	本事業により、道づくりのノウハウを取得しレベル向上につながった。森林組合内では、切り捨て間伐から利用間伐への意識転換を図ることができた。
⑦森プロ、新生産、施業プランナー研修で獲得したこと	プランナー研修の成果を活かしたプラン書を作成し活用している。
⑧今後の課題、他団体への助言等	森林組合直庸林産班の更なるレベルアップが課題である。

名称	「長良川源流の森」健全化プロジェクト
事業形態	単独
実施体制	郡上森林組合
事業地	岐阜県　郡上市　明宝　寒水地内
①２年目の感想	集約化、作業道整備については計画を達成したが、現状の材価が低い状況では十分な返還額が確保されず、山主の要望もあって木材生産量は計画を達成できていない。さらに生産性の向上を図るとともに、今後の各方面の取り組みによる材価の回復に期待する。
②２年目ということで見えてきたこと、新たに取り組んだこと、方針転換したこと等	昨年度の取り組みを継承し更なる生産性向上に努めた。また、コスト分析シート等、集約化のための作業を本格的に導入したことで、自分たちの経営分析をより明確に行えるようになった。
③JV方式について	現状の体制で特に問題が無いことから今後も体制変更の予定はない。
④集約化状況について	１）所有者に対するアプローチ方法 平成15年度に5年間の森林施業委託契約を結んでいる所有者に対し、パンフレットを作成して契約継続の取り組みを行っている（パンフレット、契約書の郵送） ２）どのような資料を利用しているか？ 組合作成のパンフレットを活用。 ３）所有者からの声 これまでの良好な関係構築により、集約化及び作業道の敷設には理解をいただいている。また、施業方式（列状間伐）についても、これまで切り捨て間伐等の手入れを行ってきた経緯により、すでに径級がそろってきているため、残存木に劣勢木が多く含まれるといったことも少なく、森林所有者の理解を得ている。 ４）道づくりや作業システムについての所有者へのアナウンス パンフレットの郵送、モデル林の見学を実施。 ５）森づくりのビジョンを所有者へどのように伝えているか パンフレットの郵送、モデル林の見学、モデル林における収支内容説明の実施を行っている。
⑤作業システムについて（継続・変更点・改良点）	前年度のシステムを継続。明宝式作業システムによる列状間伐がメイン。それ以外の場所では、施業地まで直接トラックが入れるような作業道を開設することを心がけている。
⑥成果について	これまで以上にコストを詳細に把握することができるようになった。
⑦森プロ、新生産、施業プランナー研修で獲得したこと	コストの明確化、プランナーの育成ができた。
⑧今後の課題、他団体への助言等	この森プロにおいて、列状間伐に適した条件下における低コスト生産のノウハウを習得してきた。今後は定性間伐における低コスト生産システムのノウハウ確立を目指す。新規団体等へのアドバイスとしては、その地域の特性をよく理解し、山主と話し合い、それにあったやり方を進めていくのがよいと考えている。

名称	恵南地域森林づくりプロジェクト
事業形態	単独
実施体制	恵南森林組合
事業地	岐阜県　恵那市　上矢作町　飯田洞地内
①２年目の感想	平成２０年度は、スギ高齢林分の架線集材を中心として実施した。そのため作業道の実績は年度計画に達しなかった。集約化に関しては、境界杭打ち作業や測量調査を積極的に進め、計画を上回る実績となった。
②２年目ということで見えてきたこと、新たに取り組んだこと、方針転換したこと等	「仕事づくりとトラックの購入」という目的で取り組み始めた森プロだったが、施業を進めるにつれあらゆる問題・障害にブチ当たり組合として日々、悩み、考え抜いた。結果、様々な気づきがあった。森林づくりの基本・道づくりの基本・目指すべき最終林型・・・など、将来に亘ってかかわっていくフィールドに対し、それぞれの方針と根拠がなかったことだ。その教訓を生かし現在、各地で「自分がこのエリア全体の山主だったらどうする？？？」という視点に立ち、将来の森林の姿を思い描きながら、森林づくりのプランを立て、木を伐り、道を開設している。
③JV方式について	森プロについては、今後も森林組合の森林技術者で対応してゆくが、他の事業においては、他事業者と森林組合とがパートナーシップ関係を結び、森林組合と同等の営業、境界確定、施業提案等の業務を含めた協業体制の採用も検討している。
④集約化状況について	１）所有者に対するアプローチ方法 生産林組合等地元協力者からなる推進員を設置し集約化を図っている。測量、杭打ち、図面作成を森林組合の先行投資と位置づけ推進している。 ２）どのような資料を利用しているか？ 独自のパンフレットを作成している。 ３）所有者からの声 今回の作業道を敷設した所有者からは信頼され事業を実施している。今後作業道を延長する際に、さらに所有者からの意見要望をくみ上げてゆく。 ４）道づくりや作業システムについての所有者へのアナウンス 現地見学会や説明会を開催している。 ５）森づくりのビジョンを所有者へどのように伝えているか 上矢作町道の駅付近において「間伐モデル林」を整備し、多くの人に見える形で示している。
⑤作業システムについて（継続・変更点・改良点）	車両系作業システムの実践機会の増大を図るとともに、恵南森林組合の強みである架線系集材技術と作業道を組み合わせた作業システムの確立にも取り組んでいる。
⑥成果について	恵那農林事務所とも連携し、グランドデザインの検討ができた。地域の状況に合った作業道開設手法が確立しつつある。高性能林業機械を活用した作業システムの構築に取り組むことができた。
⑦森プロ、新生産、施業プランナー研修で獲得したこと	他地域の森プロ実施団体との技術交流を図ることができ、作業道開設の技術向上やコスト低減のための機器（支障木処理用トング）開発が実現した。また、森プロで蓄積したノウハウを活かし地域森林の「総合整備計画」を全域で樹立・展開し、第２、３、４森プロを計画中。
⑧今後の課題、他団体への助言等	架線系集材時の架設・撤去のタイムロスが課題となっている。効率を考慮し今後タワーヤーダーによる帯状伐採を施工予定。